

○牟田洞古窯跡調査概要

- 窯 A… 大きさ 推定残存長 6.7m、最大幅約 2.8m (窯の壁がみられる)
- 窯 B… 大きさ 推定残存長約 2.5m、残存幅約 1.5m (焼成室の上部がわずかに残存)
- 窯 C… 大きさ 残存長約 5.2m、最大幅約 3.6m (燃烧室より下部が流出)
- 窯 D… 大きさ 推定残存長約 6.0m、最大幅約 2.4m (燃烧室付近がみられる)

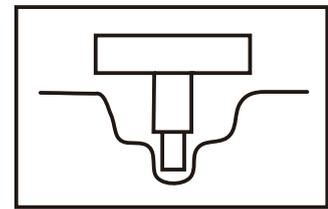
※製品は瀬戸黒、黄瀬戸、志野、天目茶碗、播鉢、皿などが焼かれている。

※出土した陶片や窯の規模から、窯の造られた時期は残りの悪い窯 B を除き、
窯 A → 窯 C → 窯 D と考えられる。

※物原 (失敗した陶器を捨てた範囲) は南北に約 60m 広がっている。

※過去に採集された資料に「□三月十二日」、「彦助なり」と線刻された資料がある。

- 1 グリッド… 土を削り、盛土を行い、作業場を造成。
ロクロピットらしき跡を確認。
□窯記号が入った窯道具が出土。
- 2 グリッド… 約 400 年前の遺構はみられないが、豊蔵等が
失敗品を捨てた様子がみられる。
- 3 グリッド… 土を削り、盛土を行い、作業場を造成。溝が一条みつかる。



ロクロピット模式図

